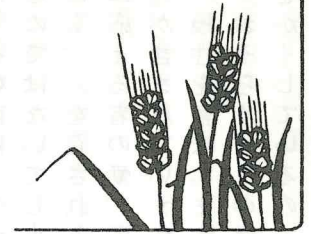


仙台司教区 教区事務所だより



(第 10 号)
昭和 5 2 年 6 月 1 日

◇司牧評議会◇

開催さる

去る5月3日、第二回司牧評議会定例会が、元寺小路教会信徒館において、午前10時から午後5時半まで行なわれた。出席者は、司教/人、司祭9名、修道者5名、信徒//名、計26名だった。

この会は、教区长、総代理、書記長の外、司祭代表、信徒代表、事業担当修道会代表、教区长直任者等によって構成されており、教区长が、教区を司牧統轄するに当たって、その諮問に答えること、教区民各界からの要望を検討審議して、その具体策を企画、上申することを任務としており、司教の使徒的使命に参与す

る重大な機関である。

この日、議題として、次の7項目が審議された。

●各小教区の現状認識の件

(教区长による諮問事項)教会の使命である宣教の立場からみて、現在小教区が、どの程度まで、自分がいる地域に、神の国の「しるし」となり得ているか、そのレポートを求めるといふもの。

この案件は、世に生きる教会が、福音宣布の精神を、どのようにとらえているか、それを見極めることによって、小教区の在り方をどのように改革、対応しなければならぬかを問う、重大な案件だった。

●司祭志願者育成、及び召命促進の件 (同じく、教区长諮問案件) 刈り入れに働く聖職者の養成と、

それに関連する活動(例えば、一粒会、神学生養成等)は、どのように在らねばならないかを問うもの。これも、第一案件に関連する根本的問題を含んだものだった。

●教会財政検討委員会答申案の件 世に生きる教会は、物心両面を備えており、霊的分野のみならず、物的分野の維持管理も必要である。信者の維持費、献金による教会経済の自立の問題が、財政検討委員会の答申を資料として、審議された。

●子供の教理教育者の研修会、及び侍者の指導の件 未来の教会を担う青少年の指導のむずかしさを、どのように克服出来るか、方策の審議が行なわれた。

●広報情報委員設置の件 「教区事務所だより」の目的の一つに、仙台司教区内の神の民の活動を、お互いに知ることにより、一体感を促進しつつ、力を一つに結びつけ発揮させるのに役立てようとするものがある。教区内の各地に情報委員を設置することにより、その機能を一層高めようとしたものだった。

※ ※ ※

● 仙台教区信徒大会開催の件
 仙台司教区民の、目に見える一致のしるしとしての教区信徒大会、の可能性について、審議された。

● 司牧評議会規則の一部改正の件
 教区組織の役職名の変更に伴う、規約の字句の変更が行なわれた。

※ ※ ※

北は青森から、南は湯本に至る司教区内の各層の代表として集まった評議員は一堂に会して、教区的視野に立って案件を審議し、神の国の建設という司教の使徒的任務への参与の務めを果たしたが、年に二度しか行なわれない定例会議が充分にその任務を果たすためには、評議会役員会が、もっと活動する必要があるように思われる。評議員の一人一人が、自分が代表する団体と絶えず密接な交わりを持ち、会議で出される意見が、単なる個人の意見でないことが大切と思われる。第二回評議会は、まだ軌道に乗っていない感を残したが、これから回を重ねるに従って、認識も深まり、運営にも慣れて、その機能を充分に発揮するだろうことが期待される。

「第十四回

世界召命の日」

4月24日



去る51年12月30日、パウロ六世陛下は、全世界の信徒に対して、「第十四回世界召命の日」のためのメッセージをおくられた。

司祭、修道者の平均年齢が年々老齡化し、新しい召し出しが減少している教会の現状を憂慮されているパウロ六世陛下のメッセージの中には、私達が心して考えなければならぬいくつかの点が示唆されている。

★「真の召命は、みな信仰から生まれ、信仰によって生き、信仰によって保たれます：」。「召命の危機があるとすれば、その前に、先ず信仰の危機があるのではないでしょうか」
 ★「どの召命も、人を召される主の愛と、それに応える者の愛、即ち二重の愛の行為が含まれています」
 ★「召命は、犠牲を意味します。召命の危機は、おそらく、この犠牲に対する恐怖をかくしているのではな

いでしょうか。司牧者、両親、教師の皆さんも、若い人々が、犠牲を自由に、喜んで受け入れるように導く方法を考えて下さい」。

召命は、「主との信頼にみちた友情のうちに、純真で寛大な精神をもって生きる」私達の生活の中から生まれます。その意味で、現代の若者をキリストの深い知識と、その信仰、キリストとの交わりに導く司牧者、両親、指導者の務めは重大です。

パウロ六世陛下は、「全教会が、私の使徒的関心をわかち合い、教会のための召し出しの価値と重要性、必要性について、熱心に深く考えて下さることを心から信じ、この問題は自分に関係ないと考える信徒は一人もいないように願います」とそのメッセージを結んでいる。

4月24日、本年度「世界召命の日」には、すべての信徒が、「召し出し」について考えることが勧められたが、シャルトルの聖パウロ会盛岡修院では、「一日中、聖体礼拝のうちに」聖職者のための祈りが行なわれ、一本杉教会では、ミサ中、教皇の

メッセージが読まれ、司祭のための祈りが共同体の祈りとして唱えられ、ボーイスカウト(ほとんどが未信者)の集会では、司祭の講話が、信仰と召命に関わる点に焦点が合わされた。又、元寺小路教会では、5月8日を召命の日として、「来て見よ」も



司教様の日程



- 6月1日 裁判所
- 6月5日 八木山教会公式訪問
- 6月8日・9日 研修会(青森カトリック幼稚園連盟)
- 6月11日 青森明の星記念式典
- 6月12日 堅信式(浪打教会)
- 6月17日 誓願式(雪の聖母修道院)
- 6月18日・19日 堅信式(大船渡教会)
- 6月22日 研修会(宮城カトリック幼稚園連盟)
- 6月26日 百年祭記念ミサ(元寺小路カトリック教会)
- 6月27日 仙台出発 ローマ訪問
- 6月28日 羽田出発 並びに
- 9月6日 羽田着 宣教会本部訪問

う一つの生き方」と題して、みことばの祭儀を中心とした若人への呼びかけが行なわれた。佐藤守也師による、アシジの聖フランシスコの足跡を辿った講話。トラピストの修道院生活のスライド、平賀師指導による晩歌の祈り、などの催しに、仙塩地区、石巻、東京などから十数名の若人と、仙台市内各修道院から、各2人の修道女の参集をみた。

このように、各地で召命の行事が行なわれたが、召し出しのための働きかけが、「召命の日」一日だけに止まらず、私達の日常の信仰生活から自ら生まれて来るものであってほしいものである。もし、私達の周りに召命の芽が育っていないとしたら、先ず私達自身、自分の生活が福音の精神に沿っているものであるかどうか、反省する必要があるようである。

人事往来



※ 沢田和夫師(東京教区司祭) 去る5月7日、第6回「新世界」

黙想会指導のため来仙。8日午後、離仙した。

※ マルセル・クレポー師(ケベック会)

長らく青森、ケベック会本部で会計の仕事を務めていたクレポー師はカナダ本部での新任務に着くため、5月12日離日した。3年間の予定である。

※ ピエール・ルカヴァリエ師(ケベック会)

黒石教会主任ルカヴァリエ師は、全国で10人位しかいないと言われる奇病(血が止まらない?)で弘前大学病院に入院していたが、治療のためカナダへ帰国。病気の治り次第再来日する。

※ モリス・ラベ師(ケベック会)

クレポー師の後任として、東京赤堤教会から来青。ケベック会本部会計としての任に着くと共に、黒石教会の司牧を兼任する。

※ ガイッセル師(ペトレヘム会)

北上教会主任ガイッセル師は、病氣治療のため5月10日、スイスに帰国。回復次第帰日するが、その間、本部付のヨハネ・シュルテンベルグ師が北上教会を兼任する。

仙台司教区統計(1976年1月1日~1976年12月31日)

		I	概 況		
面 積	45.958.58Km ²	信者総数	11783人
人 口	6846941人	求 道 者	298人
		II	人 員 構 成		
1. 教 区 司 祭			3. 修 道 士		
司 教	2	外人修道司祭	11
司 祭	27	邦人修道士	3
神学生	4	外人修道士	2
2. 宣 教 師			4. 修 道 女		
司 祭	44	邦人修道女	288
			外人修道女	63
			5. 伝 道 士	34
		III	施 設		
小教区教会	57	男子修道院	1
分 教 会 (司祭定住)	1	女子修道院	30
巡 回 教 会 (司祭不在)	12	布 教 所	11
		IV	事 業		
1. 社 会 事 業			2. 教 育 事 業		
病 院	1	短 期 大 学	3
ベ ッ ド 数	85	短 期 大 学 生	1124
診 療 所	1	各 種 学 校	1
年 間 診 察 数	6000	各 種 学 生	75
老 人 ホ ー ム	4	高 等 学 校	8
収 容 人 員	256	高 等 学 校 生 徒	6068
精 薄 者 施 設	1	中 学 校	7
収 容 人 員	50	中 学 校 生 徒	1263
養 護 施 設	6	小 学 校	8
収 容 人 員	447	小 学 校 児 童	2148
保 育 園	8	幼 稚 園	56
収 容 人 員	437	幼 稚 園 児	10059
学 生 寮	2	教 会 学 校	1557
入 寮 者	43	子 供 の 要 理 研 究	643
		V	秘 跡 結 婚		
洗 礼			信者同志	10
成 人	132	非カトリック者と	2
幼 児	130	非キリスト者と	91
臨 終	18			
堅 信	262			
病 者 の 塗 油	76			
		VI	移 動 死 亡		
転 入			教 区 外	55
教 区 外	215			
転 出			教 区 外	210
教 区 外	210			



△役員改選▽

仙台教区

女子修道会連盟



5月6日、仙台・聖パウロ女子修道院において、昭和52年度の院長会が開かれたが、次のような役員の変更が行なわれた。

会長 佐々木正子(聖ドミニコ女子修道会北仙台修道院)
留任

副会長 諸遊素子(シャルトル聖パウロ会仙台修道院) 新任
会計 土生妙子(聖パウロ女子修道会仙台修道院) 新任

書記 保井明子(シャルトル聖パウロ会七北田修道院) 新任



センター建設

本決まり



「教区事務所だより」第4号で報じた盛岡のカトリックセンター(正式には岩手カトリック宣教センター)の建設が、去る4月1日、総長臨席

の下にベトレヘム外国宣教会本部で開かれた会議で、正式に決定された。

現在の四ツ家教会の敷地に、鉄筋コンクリート、延二四〇㎡の建物が建設されることになった。

基本設計はスイスのオーベルホルツァ氏が、地元信者、司祭、設計士の意見と要望を参考として設計したもの。

一階には聖堂、小礼拝堂、鐘楼、講義室、談話室、ロビー、教会事務室、売店コーナー、司祭執務室、信徒会等の事務室、応接間、図書室等が配置され、二階は主に居室で、司祭用居室、サロン、食堂、台所、アイロン室、カテキスタとコックさんの個室、専用台所、客室などがある。他に和室もあり、研修、講義用にも使われる。

地下には三つの講義室、信徒用台所、物置、ポイラー室、電話室、車庫等が配備されている。

総予算は約2億円

今後の予定は次の通り。

5月1日～6月20日 現聖堂及び司祭館解体移転

6月20日 業者選定

7月上旬 着工
10月 コンクリート打ちこみ完成
53年4月上旬 完成

☆ ☆ ☆
5月2日、解体工事が始まってから四ツ家教会の事務所は、志家町5ノ16のベトレヘム会本部に移転。

日曜日のミサは、白百合幼・小ホールで行なわれている。

岩手県全信者の献身によって出来る「カトリック宣教センター」が、岩手県の信者と全県民の祝福となりますように(ツィゲル管区長の言葉)心から祈りたい。

(センター建設ニュース参考)



四ツ家教会の

旧聖堂、司祭館

生活学園へ移転



四ツ家教会の聖堂は、一八九二年に、司祭館は一八九二年に建築され、以来85年の長い間、盛岡市民に親しまれ、又、多くの司祭、修道女が輩出して来た。明治を懐かしむ人々からは、盛岡に残る数少ない明治の建

物として、その保存の方法が検討されたこともある。

今度、四ツ家教会の敷地に、鉄筋コンクリート延二四〇㎡の岩手カトリック宣教センターの建設が本決まりになったことから、由緒ある聖堂と司祭館の行方が心配されていたが、同市内にあるプロテスタント系ミッシェンスクール生活学園短大の礼拝堂および、宿舍として移転、改築されることになり、既に移転されているシャルトルの聖パウロ会の旧修道院建物（現在、図書館として使われている）と並んで、思い出深いその面影を保ちつつけることとなった。

この聖堂最後のミサは、5月1日にささげられた。岩手放送はこれを放映、信者と共に市民もこの懐かしい姿に名残りをおしんだ。

ちなみに、一九〇〇年にマルセーユの市民から平和の鐘として贈られ、この数十年間、朝な夕な鳴りつづけた鐘は、新鐘楼に残り、その美しい音色を響かせながら、使命をつづけることになった。

◇◇◇

参加しませんか!!

キリスト共同体錬成会

「モンド・ミリヨール」(よりよき世界への歩み運動)として世界に知られている錬成会が、東北で開かれることになった。リカルド・ロムバルデイ師によって創設され、一九五二年発足。一九六五年聖座によって公認され、世界各地で受け入れられ、日本でも既に数十回行なわれて多大の成果を修めている。司教、司祭、修道者男女、信徒男女が一緒に協力して錬成会を進めていくところに特色があり、正に世を旅する教会の縮図としての体験の錬成会である。

キリスト者であることの根本的な意義を自覚したい人

すべての人を真の兄弟として認める人になりたい人

私に与えて下さった神の愛に応えたいと望む人

キリスト教的共同体を体験したいと望む人

人に最適である。

日時 8月1日～8月6日

場所 茂庭荘

費用 2万8千円(宿泊費、会費)

指導 浜尾司教他数名のチーム

申込先 〒177 東京都練馬区上石神井一ノ

イェズ会神学院内 七一〇

M・B・W事務所

申し込みには5千円を添えて下さい。

締切日 7月10日

※河北美術展入選※

深沢守三師

(西仙台教会)

去る4月27日から5月9日まで、仙台丸光デパートで行なわれた、第44回河北美術展に、西仙台教会主任深沢守三師出品の作品「おはなし」(少女像)が入選した。(入選7回目) 河北新報4月28日付短評は、「情緒的な作品だが、説明になってしまっている。技術的にはうまいが、どうも甘さが残る」と評しているが、今年、河北新報社創立80周年記念行事として、相馬市、気仙沼市、一関市において行なわれる巡回展覧会には、彫刻入選作品27点の中から10点が巡回展に出品される内、深沢師の「おはなし」もその中に選ばれている。



1.

仙台司教区事務所だより第10号

昭和五十二年六月一日発行

発行所 仙台司教区事務所

〒980 仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222 22 7371